

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 5 区分

【発行日】平成27年10月8日 (2015.10.8)

【公表番号】特表2014-532123(P2014-532123A)

【公表日】平成26年12月4日 (2014.12.4)

【年通号数】公開・登録公報2014-066

【出願番号】特願2014-533570(P2014-533570)

【国際特許分類】

D 0 6 P 1/44 (2006.01)

D 0 6 P 1/42 (2006.01)

D 0 6 P 3/24 (2006.01)

【F I】

D 0 6 P 1/44 Z

D 0 6 P 1/42 Z

D 0 6 P 1/44 B

D 0 6 P 3/24 A

【手続補正書】

【提出日】平成27年8月20日 (2015.8.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 3】

1 - フェノキシ - 2 - プロパノールにより得られるものと匹敵する 3 2 . 3 9 という低 L 値により証明される通り、4 %グリコールエーテルベンゾエート含有している染浴液（実施例 9、1 3、1 4、1 8、1 9）により、良好な染色性能が提供された事が分かる。驚くべきことに、3 0 . 0 未満という低 L 値により示される通り、これらのグリコールエーテルベンゾエートを S L S と組み合わせることで（実施例 1 2、1 7、及び 2 2）、1 - フェノキシ - 2 - プロパノール対照により得られるものよりも色の深みが改善された。D O W F A X（商標）2 A 1 又は M T G を加える事で生じた作用は少なかったのに対し、非イオン性界面活性剤 T E R G I T O L（商標）1 5 - S - 4 0 を加えた場合には、実際の所、有害な作用が生じた。B E N Z O F L E X（商標）2 8 4（Eastman Chemical Company のグリコールジベンゾエート及びモノベンゾエートのブレンド）、V E L A T E（商標）3 6 8（Eastman Chemical Company のベンゾエートエステル）、並びにメチルベンゾエートについても、良好な染料キャリアであることが示される。

以下に、本願発明に関連する発明の態様を列挙する。

[態様 1]

A . カチオン性染料；

B . グリコールエーテルベンゾエート、グリコールベンゾエート、及びメチルベンゾエートのうちの少なくとも 1 つ；

C . 水；並びに

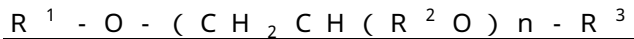
D . 任意にアニオン性界面活性剤、を含む、水性染料配合物。

[態様 2]

6 ~ 8 の p H を有する、態様 1 に記載の染料配合物。

[態様 3]

前記グリコールエーテルベンゾエートが式



のものであり、式中、 R^1 は $\text{C}_{1 \sim 10}$ アルキル基、フェニル基又はベンジル基であり、 R^2 は水素、メチル又はエチルのいずれかであり、 R^3 は、安息香酸からの $\text{O} = \text{C} - \text{C}_6\text{H}_5$ であり、かつ n は 1 ~ 3 である、態様 1 に記載の染料配合物。

〔態様 4〕

前記染料が 0.05 ~ 5 重量 % の量で存在し、前記グリコールエーテルベンゾエート、グリコールベンゾエート、及びメチルベンゾエートのうちの少なくとも 1 つが 3 ~ 6 重量 % の量で存在し、前記水が脱イオン水である、態様 3 に記載の染料配合物。

〔態様 5〕

前記グリコールエーテルベンゾエートが、1 - メトキシ - 2 - プロピルベンゾエート、2 - プロポキシエチルベンゾエート、2 - ブトキシエチルベンゾエート、2 - (2 - フェノキシエトキシ)エチルベンゾエート及び 2 - (2 - フェノキシ - 1 - メチルエトキシ) - 1 - メチルエトキシベンゾエートのうちの少なくとも 1 つであり；並びに前記グリコールベンゾエートがジエチレングリコールモノ及びジベンゾエート、ジプロピレングリコールモノ及びジベンゾエート、トリエチレングリコールベンゾエート及びトリメチレングリコールジベンゾエートのうちの少なくとも 1 つである、態様 4 に記載の染料配合物。

〔態様 6〕

前記アニオン性界面活性剤が 1 ~ 4 重量 % の量で存在する、態様 5 に記載の染料配合物。

〔態様 7〕

前記アニオン性界面活性剤が直鎖アルキルスルホネートである、態様 6 に記載の染料配合物。

〔態様 8〕

メタ系アラミド製品の染色法であって、該方法が、前記メタ系アラミド製品を染料配合物と接触させる工程であって、該染料配合物が、

A. カチオン性染料；

B. グリコールエーテルベンゾエート、グリコールベンゾエート、及びメチルベンゾエートのうちの少なくとも 1 つ；

C. 水；並びに

D. 任意にアニオン性界面活性剤、を含み、

前記染料配合物が pH 6 ~ 8 を有する、工程を包含する、方法。

〔態様 9〕

前記製品を前記染料配合物の染浴に浸漬させる、態様 8 に記載の方法。

〔態様 10〕

態様 8 に記載の方法により染色されたメタ系アラミド製品。

〔態様 11〕

繊維の形態の態様 10 に記載の製品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

A. カチオン性染料；

B. グリコールエーテルベンゾエート及びグリコールベンゾエートのうちの少なくとも 1 つ；

C. 水；並びに

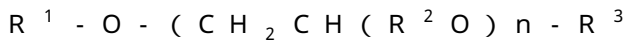
D. 任意にアニオン性界面活性剤、を含む、水性染料配合物。

【請求項 2】

6 ～ 8 の pH を有する、請求項 1 に記載の染料配合物。

【請求項 3】

前記グリコールエーテルベンゾエートが式



のものであり、式中、 R^1 は $C_{1 \sim 10}$ アルキル基、フェニル基又はベンジル基であり、 R^2 は水素、メチル又はエチルのいずれかであり、 R^3 は、安息香酸からの $C=C-C_6H_5$ であり、かつ n は 1 ～ 3 である、請求項 1 に記載の染料配合物。

【請求項 4】

前記染料が 0.05 ～ 5 重量 % の量で存在し、前記グリコールエーテルベンゾエート及びグリコールベンゾエートのうちの少なくとも 1 つが 3 ～ 6 重量 % の量で存在し、前記水が脱イオン水である、請求項 3 に記載の染料配合物。

【請求項 5】

前記グリコールエーテルベンゾエートが、1 - メトキシ - 2 - プロピルベンゾエート、2 - プロポキシエチルベンゾエート、2 - ブトキシエチルベンゾエート、2 - (2 - フェノキシエトキシ)エチルベンゾエート及び 2 - (2 - フェノキシ - 1 - メチルエトキシ) - 1 - メチルエトキシベンゾエートのうちの少なくとも 1 つであり；並びに前記グリコールベンゾエートがジエチレングリコールモノ及びジベンゾエート、ジプロピレングリコールモノ及びジベンゾエート、トリエチレングリコールベンゾエート及びトリメチレングリコールジベンゾエートのうちの少なくとも 1 つである、請求項 4 に記載の染料配合物。